

Ⅱ. キャリア形成を軸とした総合人間科の取り組み

中学1年

生き方を探る 一人から学び共に考えよう

中野和之・今村敦司
西川陽子・鈴木克彦
加藤容子

【抄録】 中学一年生総合人間科では「生き方を探る一人から学び共に考えよう」というテーマのもとに個人研究とフィールドワークを中心に活動を行った。中学一年生は、六カ年間の総合人間科の学習の中で出発点となる大切な学年である。今後、必要とされてくるスキルの基礎作りや総合学習の展望を考える上で重要と思われる、自分で課題を設定し、人から直接学ぶ追究活動を中心に行った。ここでは、その一年間の実践報告を行う。

【キーワード】 総合人間科 キャリア形成 生き方を探る 人から学ぶ

1. 目標

- ・6年間の総合人間科の学習の入口として、人と会い、人から話を聞き、自らの生き方を考える糸口を見つける。
- ・総合学習を学習するにあたっての基本的な学習技能の習得を目指す。

2. 学習方法と指導体制

- ・学習方法は、個人学習が中心となる。インタビューを中心とした調べ学習を行う。インタビューを通じた人とのコミュニケーションから、学びを深める。個人学習とは言えども2回の発表学習を設定し、自らの学びの検証を行う。
- ・指導体制は、学年5人による集団指導体制をとる。研究担当係の教員が年間計画及び授業に使用するプリントを作成し、それに基づいた指導を学級単位で行う。

3. 指導の過程

- | | | |
|-----|---------------|------------------------|
| 第1回 | 4月15日(金) 5・6限 | オリエンテーション |
| 第2回 | 4月28日(木) 5・6限 | 友人へのインタビューとその紹介 |
| 第3回 | 5月12日(木) 5・6限 | 興味・関心のあることを調べる① |
| 第4回 | 5月26日(木) 5・6限 | 保護者・実習生・卒業生へのインタビューの準備 |
| 第5回 | 6月2日(木) 5・6限 | 保護者・実習生・卒業生へのインタビュー |
| 第6回 | 6月9日(木) 5・6限 | インタビュー学習の振り返り 礼状作成 |
| 第7回 | 6月30日(木) 5・6限 | テーマを考える |

- | | | |
|------|----------------|-----------------------|
| 第8回 | 7月7日(木) 5・6限 | 興味・関心のあることを調べる② |
| 第9回 | 9月8日(木) 5・6限 | 興味・関心のあることを調べる③ |
| 第10回 | 9月15日(木) 5・6限 | フィールドワーク準備
①電話掛け |
| 第11回 | 10月6日(木) 5・6限 | フィールドワーク準備
②依頼状作成 |
| 第12回 | 11月10日(木) 5・6限 | フィールドワーク準備
③諸注意・連絡 |
| 第13回 | 11月17日(木) 5・6限 | フィールドワーク |
| 第14回 | 11月24日(木) 5・6限 | フィールドワークまとめ 礼状作成 |
| 第15回 | 1月26日(木) 5・6限 | グループ発表 研究集録原稿作成① |
| 第16回 | 2月2日(木) 5・6限 | 研究協議会準備 |
| 第17回 | 2月6日(月) 5・6限 | 全体発表 研究集録原稿作成 |
| 第18回 | 2月10日(金) | 研究協議会 |
| 第19回 | 3月9日(木) 5・6限 | 小論文作成 |

4. 学年テーマとキャリア形成

- (1)幅広い年齢層から話を聞いて、キャリア形成に活かす
- ① 1回目 級友の保護者から話を聞く
オリエンテーションでさっそくインタビュー活動を行った。オリエンテーションでは、保護者に対して公開授業の形式を採用しているため、授業参観に来た保護者へのインタビューから行った。否定的な質問ではなく、保護者の良い点はどこかを2回に分けて聞き取りした。
- ② 2回目 級友を紹介する
2回目は、クラス名簿順に前半と後半に分け、それ

それぞれの該当する番号の生徒同士でインタビューを行い。クラスでそのインタビューした記事をもとに紹介した。

③ 3回目 保護者・実習生・卒業生から話を聞く

教育実習の期間を利用して、実習生・得意なキャリアを持っている保護者・本校卒業生を学校へ呼び、グループで聞き取り調査を行う。グループで質問事項を検討したり、結果を発表する。

(2)興味のある職業に就いている人、興味のある活動をしている人から話を聞いて、キャリア形成に活かす

① 自分にとって興味・関心のある事項を探る

まずは、自分にとって何に関心があり、何に興味があるのかを考える。第3候補まで考えた上で、それぞれのテーマを決定する。テーマ決定の次は、それぞれのテーマに沿った内容で、分からない所などを図書館・インターネットなどを利用して調べる。

② 興味のある職業に就いている人、興味のある活動をしている人から話を聞く

興味・関心のある事項を探る活動から得られた情報をもとにして、インタビューする相手を探す。電話などで事前のアポイントをとる活動からすでにコミュニケーション学習が始まっている。相手に対して、こちらの用件が正確に伝わったか、また、相手に対して失礼な言葉はなかったのか、など人とのコミュニケーションをとる上での重要なスキルを学ぶ。

③ 「仕事・活動内容」だけでなく、「生き方」を聞く

自分の興味・関心のあることを知るの大切なことであるが、「職業調べ」に終わらないように、「その人の人となり」に触れられるような質問もする。その人の持っている人生観を引き出せるよう質問に工夫をする。

(3)コミュニケーション・スキルを学び、キャリア形成に活かす

① インタビューする相手とコミュニケーションをとる

3回のインタビュー学習とフィールドワーク先でのインタビューを通じて、コミュニケーションをとる方法を反復学習する。ここでいうスキルとは、電話のかけ方、礼状など手紙の書き方、交通経路の調べ方、質問したいことのまとめ方である。

② 4月から学んできた内容を学級で発表し合い、学び合う

1回目の発表は、4グループに分散して、それぞれが自分の学習してきた内容を発表する。2回目は、4グループの中で生徒によって選ばれた数名の発表者の発表を全員で聞く。ここで、自分の意見をわかりやすく人に伝えるスキルと、人の話を聞き、相手は何を伝

えたいのかを聞き取るスキルを学習しあう。同時に質問の仕方・答え方というスキルも学ぶ。

5. フィールドワーク

(1)フィールドワーク先を決定する

- ① 自分の課題が決まったら、それに合わせたフィールドワーク先候補を2～3選ぶ。この候補への電話かけを各自で行い、それぞれにアポイントを取る。生徒自ら、身も知らぬ相手への電話かけとなるため、敬語など、言葉の教育も行った。
- ② 中々、フィールドワーク先が決まらない生徒に関しては、担当教員からのアドバイスをを行い、フィールドワーク実施日までは間に合わせる事ができた。

(2)フィールドワークを活かした学習活動

- ① フィールドワーク実施後の学習活動として、各4グループに分かれてのフィールドワーク発表会を行う。各自の質問内容やそれに対する応答など具体的な内容をそれぞれ発表し、意見を交換した。この時、発表方法などに工夫を施した。
- ② 4グループから、それぞれ生徒が選んだ8名の発表会を行う。この時、学年全員でその発表を聞き、意見を交換した。

6. 高3から生き方を学ぶ

(1)先輩から生き方を学ぶ

- ① 2月10日(金)に本校で開催された「中等教育研究協議会」の公開授業として設定した。以下の三名の高3生からの話を聞き、インタビューを行った。
- ② Aさん：どのように総合人間科を活用し、今の進路を決めたのか。何を目指しているのか。
Bさん：総合人間科や学校行事後の作文など、文を書く機会に恵まれた環境で自分をどう活かすか。
Cさん：総合人間科を積極的に行ってこなかった経験から、みんなに伝えておきたいこと。



【公開授業の様様】

- ③ 質問
- ・将来を決めるために大切なことは何ですか。
 - ・6年間の学校生活の中で、一番満足できたのはどういう時ですか。
 - ・総合人間科の上手な活用法は何か。
 - ・挫折したときはどうしたのか。

(2)中1生の感想

・「頑張ったのにできなかったという人は、本当は目標を達成できるほど努力していない」

この言葉を聞き、「私のことだ」と思った。私はできなかったら、いつも、「頑張ったのに・・・」と言い訳ばかりしていた。こういう人は努力していない人だ。「努力すればできる」とA先輩は言っていた。私はこの言葉を信じたい。

・私は前回のフィールドワークで、こういう仕事は私には向いていないと思ってしまい、失敗だったかなあと思っていたけど、先輩が行きたい所が調べていくうちに変わることもあるし、そこがイヤになったらまた違うものを調べたらいい、と言ってくださったので安心しました。

小括：普段の学習では、同学年でしか学習活動が行われないため、他学年の生徒からの意見を聞く機会がほとんど持てないのが現状である。6年間の入り口である中学1年と出口となる高校3年の学年を超えた話し合いは、総合人間科の入り口に立った中学1年生にとっては、価値あるものであったに違いない。教師から受けるアドバイスを違って身近に感じられたものと思う。

7. まとめと今後の課題

(1)アンケート結果の分析

・平成17年11月に生徒に対して学力アンケートを行った。項目としては、①理解する力、②表現する力、③課題を設定する力、④探究する力、⑤人や社会と関わる力の五項目である。それぞれの項目を5段階で評価をした。①は3.94、②4.07、③3.76、④4.23、⑤3.90であった。全体的に平均以上の評価が得られたが、③の課題を設定する力が、やや評価されなかったようである。これには、中学1年生で将来を考える事に対するとまどいがあるようだ。なかなかテーマを設定できずに最後まで、悩んだ生徒が数名出ており、キャリア学習の開始年齢について再検討する必要があるように思う。

(2)生徒の感想

・総合人間科の存在を知らなかった生徒の感想

・・・まもなくはじまった総人（総合人間科の略称）の授業ではとにかく驚きの連続だった。それはひっくり返していえば「全てを一人でやる」ところだと思う。特に範囲をしばらず自由な自分のテーマでそれぞれ深めていって、アポも自分でとり、校外へ出て行くのだ。一人で。こんなことは普通の学校ではやらせてもらえない。・・・(Dさん)

・・・アポをとるために電話をしたり、依頼状やお礼状を書いたり、絶対に普通では体験できないことをやってきたんだといことを感じます。地元にある中学校でも、自分の将来の夢や興味のあることについて調べる授業があったようですが、アポとりや依頼状のことは全て先生がやっていたそうです。・・・(Eさん)

総合人間科の存在を知らなかった生徒たちの驚きの様子が良くわかる。全て、自分たちの手で行うため、フィールドワーク先への電話かけなどの際には、「電話の順番待ちの時から緊張して」いたほど、大変だったことが伝わってくる。

・総合人間科が本当にイヤだった生徒の感想

・・・最初の自己紹介がイヤだったからです。・・・恥ずかしいからやりたくない・・・それから少したって、学校でのお父さんお母さんのお話でのインタビュー。このころになるとだんだん「インタビューする」事になれてきていたんだと思います。・・・このインタビューが終わると、外で買い物に出たときなど、お店の人と会話ができるようになっていました。自分でも驚いているくらいです。・・・(Fさん)

総合人間科が本当にイヤだった生徒の典型的な例が示されている。人との会話が苦手な生徒にとって、総合人間科は苦痛な科目となる。人との会話が苦手なのは、そういう場を経験していないことが多分に含まれている。中学1年では、徐々にインタビューに慣れさせるため、3回のインタビュー練習の場を設定している。この生徒の場合は、幸いにプラスに転じたようである。

・総合人間科が楽しみな生徒の感想

・・・小学校の頃との違いを味わいたくて、最初の総人を待っていました。待ちに待った総人。初めの方は、インタビューが多く、フィールドワークに役立ちそうなものが沢山あって勉強になりました。そして、テーマを決めたり、フィールドワークの準備が始まって・・・電話をする時、緊張するだろうと思っていたのに全く緊張しなかったので自分で自分のことがすごくビックリでした。OKをもらえた時はとっても嬉しかったです。お礼状を送ったりと忙しかったけど、せまってくると楽し

みになりました。・・・(Gさん)

総合人間科が楽しみな生徒は、小学校でも楽しく学習が出来ていたようである。「今年の総人は初めてのことでなければなかった」ということから、可成りの部分が小学校の総合学習で経験済みであり、その積み上げが今回為された形のようなのである。各小学校での取り組み方の違いが、中学1年生では影響が出たのであろう。

(3)今後の課題

・フィールドワークを行う上での課題は、やはり、フィールドワーク先の確保であった。電話掛けによるインタビュー依頼がうまくゆかず、生徒の自力だけでは依頼先を見つけられなかった例もあった。その場合は、教師側で2・3の例を示して、電話掛けを行った。総じて、フィールドワーク先では、各学校からの依頼があるため、その対応ができていたようであ

る。以前と比べて総合学習が根付きつつあると感じた。

- ・フィールドワーク後の発表会について、自分の考えている事を他人にいかにかに伝えるのか、という課題が出てくる。プレゼンテーション能力の開発に力点を置いて、指導していく必要がある。
- ・小学校の時に、すでに上記の事柄について学習して来た生徒とそうではない生徒の差を今後、如何に縮めていくのかという課題が残る。生徒自身が楽しいと感じるような工夫と共に、自ら進んで学習していこうとする場を設定していく必要がある。
- ・総合学習に対する批判もあり、教育実践が難しくなりつつある現状ではあるが、まだまだ掘り進めていく必要のある科目であると考えられる。真の学力とは何かを考えると、この総合学習で得た学力が大きなウエイトを占めることは間違いないであろう。

フィールドワーク先一覧

テーマ	フィールドワーク先
スタイリスト	名古屋デザイナー学院
そろばん	大島学園
ゲームデザイナー	コンピューター専門学院HAL
獣医	セントラル動物病院
図書館で働く人	名古屋大学附属図書館
犬のしつけ	愛知動物保護センター
椎間板ヘルニア	名古屋大学医学部
カローラ	トヨタ自動車(株)
ロボット	名古屋工業大学
通訳	コングレインステイテュート名古屋校
小説家	三田村博史
野球の試合	ナゴヤ球場
保育・幼稚園の先	第三幼稚園
アナウンサー	中京テレビ
弁護士	愛知県弁護士会館
戦争に関わった人	永田正世
父の仕事	後藤毛織(株)
DJ	名古屋タレントビューロー
ピアノ調律師	ピアノクリニック

テーマ	フィールドワーク先
食料	農学国際教育協力研究センター
魚類の多様性	名古屋大学農学部
宗教と人との関わり	真宗大谷派名古屋教務所
クリスマスの祝い方	日本アイアランス教団
ペットシッター	DOGS HEART
スポーツを研究する	総合保健体育科学センター
小学校の先生	尾張旭市立旭小学校
接骨院	安井接骨院
雑誌編集の仕事	びあ(株)
ピアノの先生	ヤマハ音楽教室御器所センター
漢字のルーツ	名古屋大学文学研究科
化石について	名古屋大学博物館
和楽器	日野屋和楽器店
保育士の仕事	山下保育園
イラストレーター	名古屋デザイナー学院
アナウンサー	東海ラジオ
アナウンサー	NHK名古屋放送局
大きなけが	名古屋大学付属病院
人格の成り立ち	名古屋大学教育学部

パタンナー	株式会社二葉	小学校の先生	砂田橋小学校
飼育員	東山動植物園	飼育係の仕事	動物会館
馬	愛知県競馬組合総務課	腫瘍	名古屋大学医学部附属病院
アナウンサー	NHK名古屋放送局	宇宙について	名古屋大学理学部
心理学	名古屋大学教育学研究科	人を育てる	名古屋大学教育学研究科
グラウンドスタッフ	セントレア空港管理棟	今の車と昔の車	トヨタ博物館広報グループ
図書館司書	市立瑞穂図書館	人命を預かる鉄道	名鉄広報部
野球の道具	熱田イオンショッピングセンター	幼稚園教諭	名古屋あかつき幼稚園
身近な物を造る事	名古屋大学工学部	保育士になるには	白山幼稚園
天気予報	名古屋地方気象台	声優の仕事	代々木アニメーション学院
建築・建築士	名古屋工業大学	救命医の仕事	名古屋大学附属病院
建築	大和ハウス名古屋支店	パイロット	セントレア空港管理棟
盲導犬	中部盲導犬協会	スポーツドクター	名古屋グランパスエイト
野球のトレーニング	台南坦仔麵 郭源治	コンピューター	富士通東海支社
障害者スポーツ	障害者センター	法と検察	名古屋地方検察庁 企画調査課
弁護士の生き方	愛知県弁護士会館	木(建築・建材)	ヨコタハウス
動物に関する仕事	愛知牧場	医者生き方	名古屋大学附属病院